

埼玉前衛からCAFネビュラへ

西暦	埼玉前衛からCAFネビュラへ	美術館	社会の動向
1926		東京府美術館 開館 (日本初の公立美術館)	
1943		「東京都美術館」に改称	
1949	読売アンデパンダン展 開始		
1951			第1回埼玉県展開催 (大宮市東中学校)
1953			埼玉県美術家協会誕生
1957		県立美術館完成 (別所沼公園)	
1961	五月女幸雄「埼玉前衛芸術家集団」創設 地元作家 高橋俊彦、麦倉忠彦、島田忠恵たちと活動拡大 1964年までに7回 展覧会を開催するが自然消滅 60年代は前衛（従来のアカデミックな表現ではなく 革新的な表現）の時代であり、美術の多様な表現へ と繋がってゆく		安保闘争 若い美術家たちは社会運動の波 に突き動かされてゆく
1962	重村三雄 第5回シェル美術賞展 第5回現代日本美術展に平面作品を出品のち立体造形 に変わり、1969年現代国際彫刻展に出品 人体や実物からじかに型どりした「カタメタージュ」 の技法は話題となる		
1963	高木康夫、野口眞木雄、根岸和弘「第5回埼玉前衛芸術展」に出品		
1964	重村三雄「第7回埼玉前衛芸術展」に出品 読売アンデパンダン展 閉幕		東京オリンピック開催 東海道新幹線 東京～大阪間開通
1965	アンデパンダン・アート・フェスティバル 開催（岐阜を拠点） 13回で突如中止となった読売アンデパンダンの継承 「埼玉前衛芸術家集団」も二つの出し物で参加		
1966		埼玉会館完成（浦和市）	埼玉会館落成記念 第7回県展開催 ビートルズ来日
1969	五月女幸雄 毎日現代美術展（東京都美術館） 「人間商品」発表 ガラスケースに人間そのものを展示 物議を醸しだし、メディアを巻き込み話題となる		
1970			第2次安保闘争、ベトナム反戦運動 大阪万博開催
1973			武蔵野線開通

西暦	埼玉前衛からCAFネビュラへ	美術館	社会の動向
1978	五月女幸雄「埼玉・新しい芸術の会」発足 重村三雄、高木康夫が運営委員として参加する 「埼玉美術の祭典」第1回展 開催（埼玉会館） コンクール部門設立（日本初の公開審査を実施）		
1982	「埼玉美術の祭典」（埼玉県立近代美術館に移る）	埼玉県立近代美術館開館	
1983	高木康夫 事務局長となる 野外展示開始	本間正義 館長 ～1991年	
1984	「現代美術の祭典」と名称変更 高木康夫 事務局長		
1985			埼京線開通
1987	「現代美術の祭典」終了		1986年頃よりバブル本格化
1988	「現代美術120人展」（Pre-CAF）		
1989	Contemporary Art Festival（第1次CAF） ～'91まで 高木康夫 事務局長		昭和から平成へ
1991		田中幸人 館長 ～2000年 以後、埼玉県教育委員会教育 長が館長兼任 ～2011年	
1993	Contemporary Art Festival（第2次CAF） ～2003まで 高木康夫 事務局長		
1995			阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件
2001			政令指定都市 さいたま市誕生
2004	高木康夫 逝去 13年続いたCAF展をCAF.N協会に改組 「第1回CAFネビュラ展」開催 現在に至る		
2011		建畠哲 館長 ～現在に至る	東日本大震災
2012	重村三雄 逝去		
2019			平成から令和へ
2020			新型コロナウイルス感染症の流行
2021			東京オリンピック開催
2023	2023 CAFネビュラ展—埼玉前衛からCAFネビュラへ		さいたま国際芸術祭2023